

夏秋キュウリ（露地栽培）の病害虫の発生状況（6月中下旬）

1 ベと病

巡回調査で発生は確認されませんでした（図1）。降雨期は湿度が高くなり、本病が発生しやすい条件となるため、発生初期から防除を実施してください。

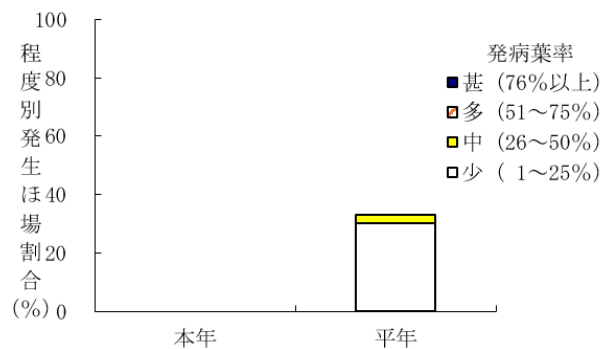


図1 ベと病の発生状況

2 うどんこ病

巡回調査で発生は確認されませんでした（図2）。まん延すると防除が困難となるので、発生初期から防除を実施してください。

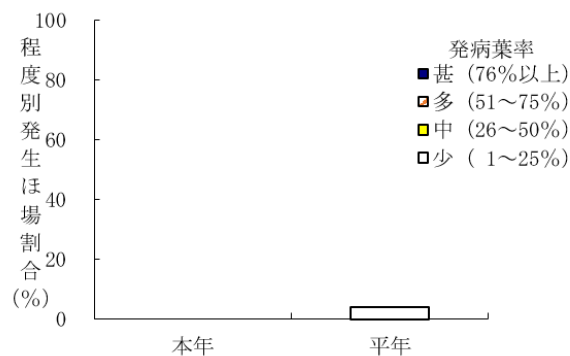


図2 うどんこ病の発生状況

3 炭疽病

巡回調査で発生は確認されませんでした（図3）。まん延すると防除が困難となるので、り病葉は摘除し、発生初期から防除を実施してください。

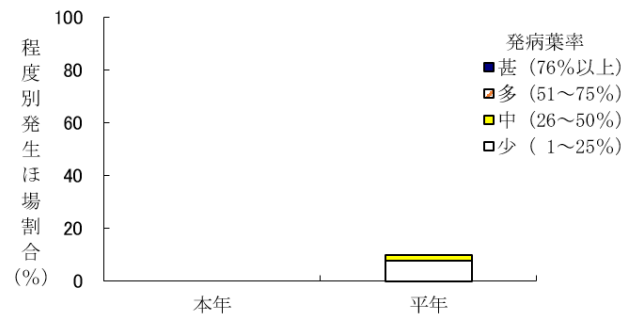


図3 炭疽病の発生状況

4 斑点細菌病

巡回調査における発生ほ場割合は、平年並でした（図4）。発病した際は被害茎葉をほ場外に適切に処分してください。発病後の防除は難しいため、予防散布を実施してください。

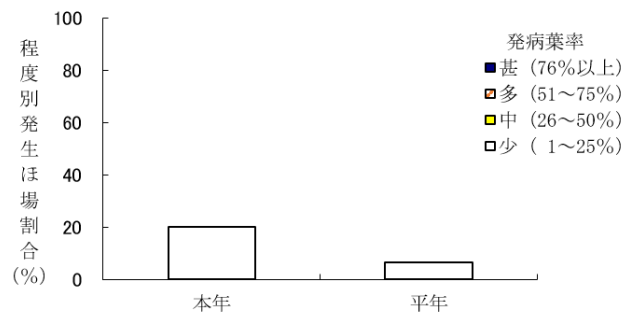


図4 斑点細菌病の発生状況

5 モザイク病

巡回調査における発生ほ場割合は、平年に比べてやや高い状況でした（図5）。モザイク病はアブラムシ類等が媒介するため、アブラムシ類等に対する防除を実施してください。また、被害株は、必ずほ場外に持ち出し処分してください。

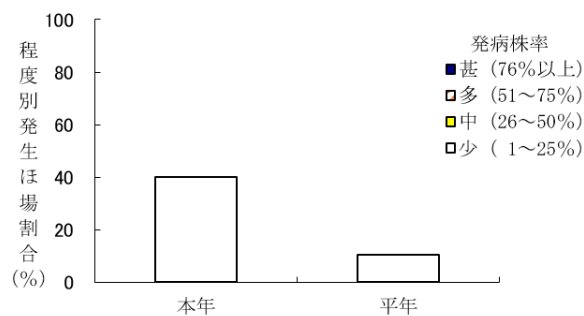


図5 モザイク病の発生状況

6 アブラムシ類

巡回調査における発生ほ場割合は、平年並でした（図6）。有翅虫の飛来が確認されています。ほ場をよく観察し、発生がみられた場合には、速やかに防除を実施してください。また、アブラムシ類は、CMVなどのウイルス病を媒介するので注意が必要です。

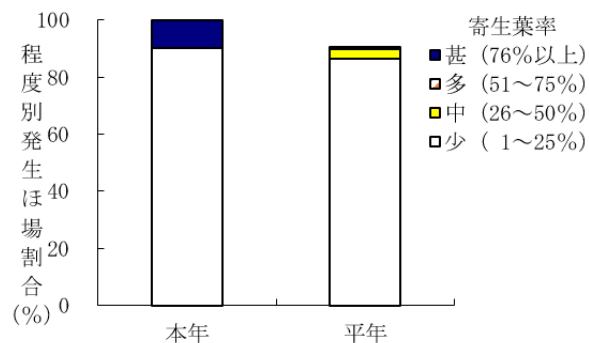
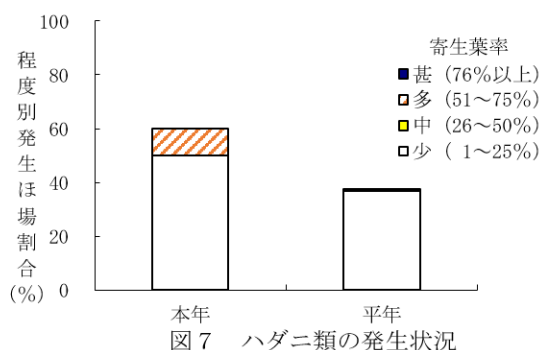


図6 アブラムシ類の発生状況

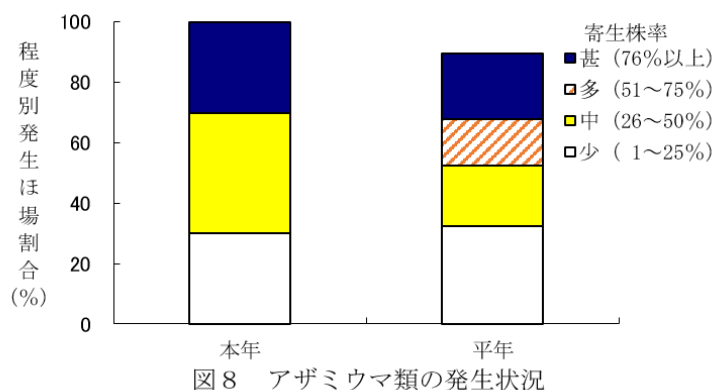
7 ハダニ類

巡回調査における発生ほ場割合は、やや高い状況でした（図7）。多発すると防除が難しいので、ほ場をよく確認して、低密度時から防除を徹底してください。薬剤防除を行った場合には、防除の2～3日後に葉裏を観察し、効果が十分でない場合には、異なる系統の薬剤で防除を行うなど適切に対応してください。

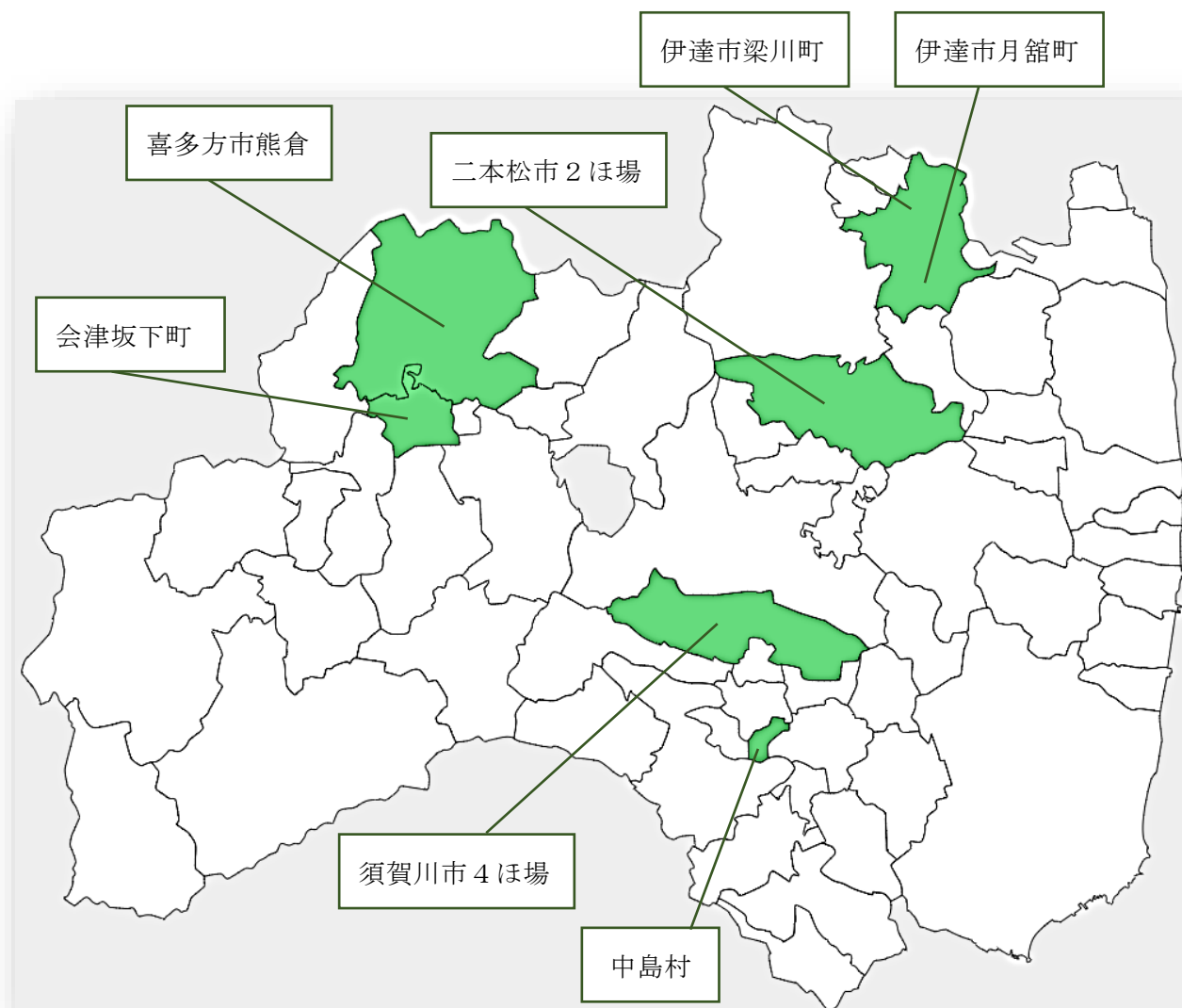


8 アザミウマ類

巡回調査における発生ほ場割合は、平年並でした（図8）。多発すると防除が難しいので、ほ場をよく観察して、低密度時から防除を徹底してください。また、発生初期に薬剤防除を行い、薬剤抵抗性の発達を防止するため、異なる系統の薬剤で防除を行うなど適切に対応してください。



※夏秋露地きゅうりの巡回調査では、下記の11ほ場を調査しています。



■ 情報内容への質問や要望は、福島県病虫害防除所まで御連絡ください。

Tel:024-958-1709

Fax:024-958-1727

e-mail:yosatsu@pref.fukushima.lg.jp